

The Federation of  
Electric Power Related Industry  
Worker's Unions of Japan

編集・発行 / 電力総連  
編集人 / 高島 正盛

全国電力関連産業労働組合総連合

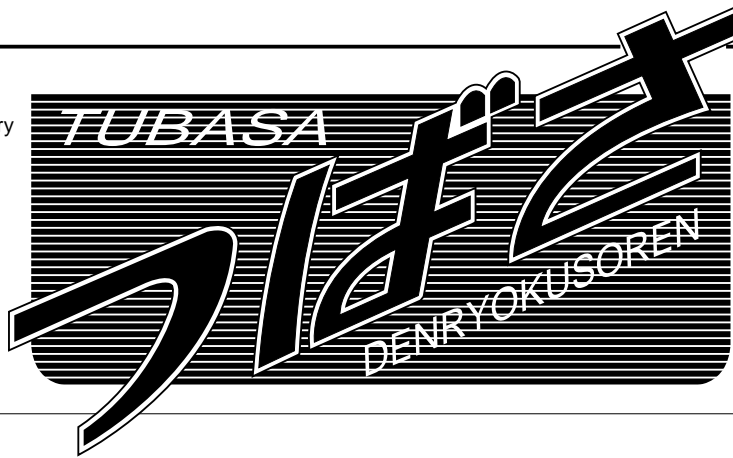
〒108 0073

東京都港区三田2丁目7 13 TDS三田3F

☎ 03(3454)0231 一部50円(送料含む)

ホームページ <http://www.denryokusoren.or.jp>

TUBASA



2007年  
6/4

安全衛生特集号

No.129

# つねに安全最優先!

— 組合員の皆さまへ —

「安全と健康は何よりも優先する」電力総連はこの基本認識に立ち、構成総連および加盟組合と連携し、安全衛生活動を展開しています。

しかし、私たちの職場では労働災害が増加傾向であり、さらに、死亡災害も多く発生するという大変憂慮すべき状況にあります。

労働災害を防止するためには、組合員一人ひとりが安全意識を高めることが有効であるとの認識に立って、今後ともゼロ災害を目指して取り組みを続けていくことが必要であると考えます。

この度、安全衛生に対する意識喚起として「安全衛生特集号」を作成、皆さんに、電力総連大の労働災害の発生状況や、災害防止に向けた情報を掲載しました。

是非、参考としていただき、労働災害のない明るい職場をめざしましょう。

## 電力総連の労働災害の発生状況

【過去5年間の発生状況】  
電力総連の災害発生状況は、この5年間で大幅に増加しており、残念ながら死亡災害も毎年発生している状況にあります(表1)。

災害種別の内訳は、交通災害、転倒災害、墜落・転落災害で70%以上を占めています(図1)。また、死亡災害の内訳は墜落・転落災害、交通災害、感電災害で同じく70%以上となっています(図2)、死亡災害に至る確率が高い災害は感電災害、崩壊・倒壊災害、墜落・転落災害となっています(図3)。

この分析結果より、感電災

害、崩壊・倒壊災害、墜落・転落災害は死亡災害に遭遇する可能性が高いことが分かります。こうした作業を実施する場合には、保護具・防具の確実な着用や作業手順の遵守など決められたことを守ることが重要となります。

電力関連職場で発生した労働災害を他人事と思わず自らの問題であることを認識した上で、一人ひとりが安全について真剣に取り組むことが大切です。また、電力関連職場では多くの職種があるので、それぞれ職種ごとの特性を考慮しながら、労働災害発生傾向を分析することが必要です。

表1 過去5年間の労働災害発生状況の推移

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	5年間の累計
労働災害発生件数	292	333	302	304	552 (347)	1783 (1578)
死亡災害発生件数	5	9	4	4	19 (7)	41 (29)

平成17年度までは組合員を対象に集計。平成18年度より協力会社の労働者が被災した件数を含んでいる。  
平成18年度の( )は、組合員の内数。

図1 過去5年間の労働災害発生状況内訳(災害種別)

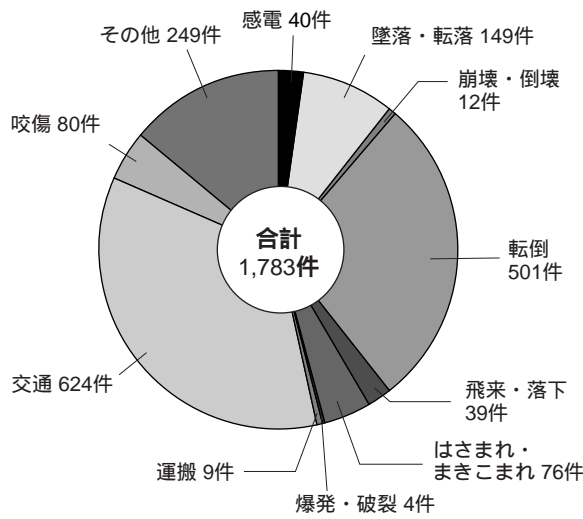


図2 過去5年間の死亡災害発生状況内訳(災害種別)

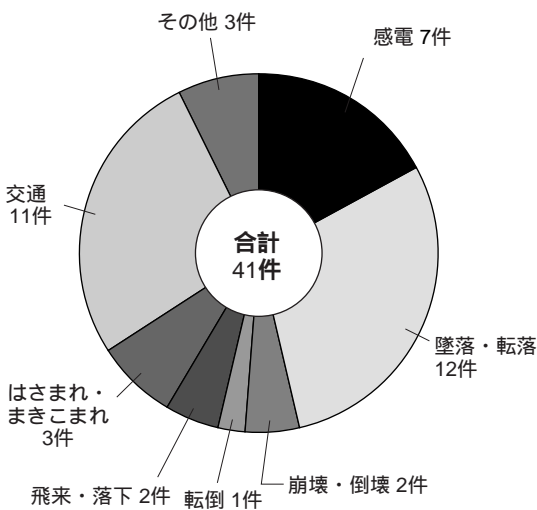
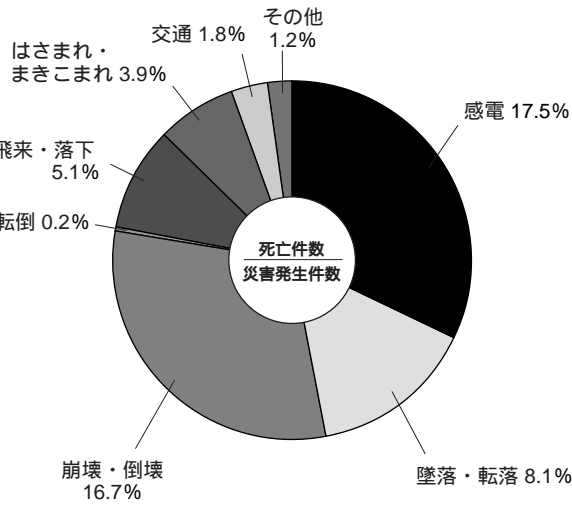


図3 過去5年間の死亡災害発生割合(災害種別比較)



参考：平成19年安全衛生活動の概要

近年の労働災害発生件数は高止まりの状況にあると認識  
↓  
安全最優先の意識を持つことの重要性を痛感!!  
↓  
労働組合が組合員の安全を守るために行動することが必要  
↓  
どのような視点で施策を展開するのか?

安全対策  
『安全最優先の意識の醸成』  
『同じ職場で働く仲間とのコミュニケーションの充実』  
衛生対策  
『電力総連メンタルヘルス対策の展開』

【施策の概要】  
安全衛生意識の高揚を図るための施策の展開  
「一声かけ 安全・あいさつ運動」など  
労使間で取り組む  
安全衛生委員会の充実(加盟組合)、事業者団体への要請活動(電力総連など)  
重大災害の共有化  
共有化を図り、類似の災害を防ぐ。  
メンタルヘルス対策  
電力総連メンタルヘルス対策の展開

<p>安全最優先のための心掛け</p>	<p>絶対に不安全な行動・自己中心的な行動をしない。 危険を危険と感ずる感受性を高める。 思いやりのある心を持ち、安全の確保については妥協しない。</p>
<p>職場内の安全見直しのポイント</p>	<p>安全用具・設備（足場、手すり、照明、検電器など）が整備されているか？ 危険要因が適切に改善されているか（作業手順の安易な省略がないかなど）？ 適正な作業時間・要員に対応した適正な業務量が確保されているか？ 危険要因がある場合は、職場の組合役員に相談してみましょう。</p>
<p>車両運転時のポイント</p>	<p>交差点走行の際の注意点として、車体の小さい二輪車は対向車から遠くに見える傾向にあります。右折の際はもちろんのこと、直進の際も二輪車の特性を理解しておくことが必要です。 原付車の事故は、原付車側が一時停止を怠ったことが原因による事故が多発しています。原付車も安易な気持ちで運転することなく、交通ルールを守ることは重要です。 二輪車は天候等の影響を受けやすいので、降雨時などでは、急発進・急ブレーキ・急ハンドルなどの急激な運転操作はしない、晴天時より減速して走る、車間距離を十分に保つなどの運転に心掛けるとともに、やむを得ない場合以外は運転を控えましょう。</p>
<p>転倒災害を防ごう</p>	<p><b>《転倒災害を防ぐためのポイント》</b> 通路・作業床は、床面の凹凸・勾配を極力少なくする。 作業者の履物はゴム底靴、安全靴など靴底の摩擦係数が大きいものにする。 小さな段差に十分に注意する（段差は小さければ気がつかないことが多く、3センチの段差でも足を引っ掛けることがある）。</p> <p><b>《転倒災害を防ぐための禁止事項》</b> ポケットハンドでの歩行 両手で荷物を抱えて持ち、足元が見えない状態で歩行 不適切な履物を使用（スリッパ・ハイヒール等） 主要通路の通行障害になる場所に物を置く</p>

**労働災害防止のためのワンポイントアドバイス**

私たちの職場や働く仲間から「労働災害」を発生させないため、「安全行動」「安全作業」を実践することは大切です。また、自分自身の安全は「まずは自分で守る」という意識も肝要です。この機会に、職場の仲間と安全衛生についての情報交換や意見交換を行い「労働災害を出さない！出させない！」ための取り組みを、今一度、確認していただきたく思います。この機会にぜひ、職場において危険要因がある場合は、組合役員に相談してみましょう。

**労働災害防止のためのワンポイントアドバイス**

会」等の資料をもとに、私たちの職場で災害の大半を占める「交通」・「転倒」災害を中心に「ワンポイントアドバイス」を掲載しましたので、是非、参考としてください。なお、職場において危険要因がある場合は、組合役員に相談してみましょう。

**酷暑期の安全衛生対策**

「暑いから」といって保護具・防具の着用や作業手順の省略をしていませんか？ 睡眠不足や深酒、朝食抜きなどはありませんか？ 作業中のこまめな水分補給・適切な休憩時間の確保がされていますか？ 特に酷暑期は一人ひとりが作業安全・健康管理に気を配ることが大切なのです。

とりわけ酷暑期の作業管理・健康管理では熱中症対策が重要です。この特集号で酷暑期の安全衛生対策として「熱中症対策」を取り上げました。皆さまも次ぎの内容を参考に、職場や普段の生活において熱中症対策に取り組み、安全で健康に夏季を乗り切りましょう。

**【熱中症に関する知識】**

熱中症はその対処法を間違えると死に至る場合もあるので正しい知識と対処法を覚えておくことが重要です。  
それでは熱中症についてももう一度勉強してみましょう。

**●熱中症の予防法**

**暑さを避けるようにしてください。**  
日陰を選んで歩く。帽子をかぶる。日傘をさす。  
**服装を工夫してください。**  
吸水性の優れた下着の着用。黒色系の素材の服装は避ける。襟元をゆるめる。  
**こまめに水分補給しましょう。**  
のどが渇く前に水分補給を行う。ビールなどのアルコール飲料での水分補給は厳禁。  
**熱中症は久しぶりに暑い環境で活動した時に発生することが多いので注意しましょう。**  
暑くなり始め。急に暑くなる日。熱帯夜の翌日 など。  
朝食を食べたか。寝不足はないか。脱水症状ではないか。風邪や体調不良はないか。  
**職場内でお互いに配慮や注意をしましょう。**  
暑さが避けられない場所での作業はなるべく短時間で済ませるようにする。水分補給（たくさんの汗をかいた場合は塩分の補給も）、休憩時間は体調に注意してこまめにとる。熱中症を発症した際、発症時の状況を伝えることができる人が医療機関に同行する など。

**●熱中症になった時の対応**

熱中症の場合は、死に直面した緊急事態であることを認識しましょう。重症の時は救急車を呼ぶことはもとより、現場ですぐに体を冷やすことが必要です。  
涼しい環境への避難。脱衣と冷却。水分と塩分の補給。医療機関へ運ぶ。

**●全国の熱中症による死亡災害**

厚生労働省の統計によると平成11年からは毎年20名前後の熱中症による死亡災害が発生しており、平成18年は17件発生しています。月別・時間帯別で死亡災害の発生状況を見ると、月別では7月から8月に集中しています。時間帯別では午後2時台から4時台に集中しています。

**●熱中症予防のための指標**

熱中症予防のための指標であるWBGTを目安とすることが、熱中症予防に有効といわれています。WBGTとは、労働環境において作業者が受ける暑熱環境による熱ストレスの評価を行う簡便な指標のことです。気温に加え、湿度、風速、輻射（放射）熱を考慮し、総合的に評価して、作業内容に応じて設定されたWBGT基準値を超えているかを判断するとしています。WBGTにより労働環境をチェックして熱中症を予防しましょう。  
厚生労働省もWBGTを活用した熱中症の予防対策を徹底するよう薦めています。詳しくは厚生労働省のHPを参考にしてください。  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei05/index.html>